兵庫県産カンアオイ属の検討

建　部　恵　潤

Ⅰ はじめに

私はカンアオイ属の分類に功献された故荒木英一先生のご指導で，カンアオイ属に興味を持ったが，近年各地から生品を集めて栽培し観察を続けている。

それとともに兵庫県産カンアオイ属の種類や分布についても関心をもってきたが，兵庫県植物目録（1971）に記録された種類や産地にはかなり訂正の必要のあることも知った。幸い同好各位のご協力によってかなり産地も判明した。まだ資料が充分でなく予想に過ぎない点もあるが，つぎの調査段階へ入ろうとする機会にこれまでに得たところを記して中間報告とし，併せて貴重な標本（生品）を恵与いただいた各位へのお礼としたい。

なお，末尾に目についた兵庫県のカンアオイ属が記録されている文献を挙げた。蝶研究家のギフチョウの食草として記録されているものも含んでいる。いうまでもなく，カンアオイ属の同定は困難であり，植物，蝶両者ともこれらの文献の中には同定を誤ったり，種名の明らかでないものもあるが，分布調査の手がかりとなるであろう。

Ⅱ 兵庫県植物目録から除く種類

兵庫県植物目録（1971，兵庫県植物目録刊行会，六月社書房発行）に記載してあるカンアオイ属は変種を含めて8種類あるが，次の3種類は削除するのがよい。

1 コバノカンアオイ（Asarum variegatum）は栽培種であるから削除する。

六甲山（山鳥，岡本），雌岡山雄岡山（江越）のものは生品を見るとヒメカンアオイである。赤穂郡のものは恐らく誤認であろうが，もし自生していると分布上貴重である。

因みに，寺院などの庭園にヒメカンアオイが植えてある。日照がよいと小形になっているが，こうした小形になったヒメカンアオイを栽培品という理由でコバノカンアオイと同定するのは危険である。

2 ゼニバサイシン（A. takaoi var. hisauchii）はヒメカンアオイの変種とされている葉の円形のものである。後で述べるようにヒメカンアオイは変異が強く，また生育環境による草性の差も見られる。愛知，岐阜両県から得たものにはゼニバサイシンと同定できるものがあるが，近畿からはまだ得ていない。

六甲山や雌岡山（近藤）のものはヒメカンアオイである。近畿のヒメカンアオイは葉がやや円形でキンキカンアオイと仮称される。六甲山のものはこの型で，川崎氏はキンキカンアオイとして記録している。また稲田氏が採集恵与された有馬郡藍本のものを荒木氏はキンキカンアオイの型と同定された。

3 カンアオイ（カントウカンアオイ，アズマカンアオイ **A. kooyana var. nipponicum**）は関東から中部に分布するもので，近畿各地からは知られていない。従って兵庫県に分布するとは考えられないから削除するのがよい。

カンアオイ属は種の同定が困難であったり，種の認識が充分でなかったので，カンアオイの1種の意味でカンアオイと記録されていることがあった。種としてのカンアオイと誤認したものではない。こうした記録をそのまま引用したので多数の産地が挙ってきたのである。

淡路のものは大部分ナンカイアオイと考えてよい。六甲山，再度山，加東郡のものはヒメカンアオイである。

宍粟郡奥谷（波賀町）のものは，未確認であるが高処にアツミカンアオイがある可能性があるので，これを指しているのではないかと思う。

以上のように兵庫県に分布の可能性のない3種類を削除すると，フタバアオイ，ウスバサイシン，ヒメカンアオイ，ミヤコアオイ，アツミカンアオイが残り，新たにナンカイアオイを加えると，兵庫県には6種類のカンアオイ属植物が分布している。

つぎに，それらについて述べるが，〔生品〕の産地は（　）に記す方々が採集恵与された生品の自生地である。〔記録〕は末尾文献の同定確実と思われるものの産地だけを挙げ，疑わしいものについて検討したものもある。

Ⅲ 兵庫県のカンアオイ属植物

フタバアオイ Asarum caulescens Maxim.（図1）

次の産地が知られているが，但馬，丹波，播磨北部の山地にはなお多くの自生地があると考えることができる。

〔生品〕佐用郡船越山（建部），宍粟郡山崎町岩上（建部，橋本光政），安富町関（橋本），一宮町蓮華岩山国有林（建部）

〔記録〕六甲山（山鳥，川崎，岡本），多紀郡多紀町福

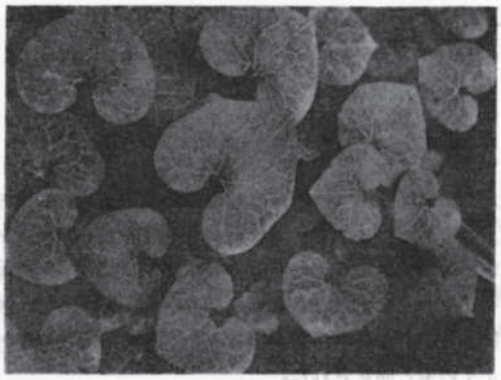

図1　フタバアオイ　宍粟郡山崎町岩上原産
筆者栽培

住（目録），氷上郡三国岳（目録，細見氏私信），神崎郡笠形山，上小田（目録），朝来郡段ケ峯（荒木，川中），佐中（川中，筆者も自生を見た），宍粟郡波賀町（建部），山崎町岩上，梯（建部）

ウスバサイシン A. Sieboldii Miq.

但馬の高い山に自生が知られているが，福田（旧姓川中）菊市氏が採られた朝来郡黒川渓谷は標高約500 mの低地であるから，但馬では低地でも注意が必要である。宍粟郡北部の高地にも出る可能性がある。

兵庫県植物目録に淡路各地として記録されているものは削除するのがよい。寒い地方のかなり高地に自生する本種が淡路全土に広く産するとは考えられないことである。また，山鳥氏は六甲山に産すると述べているが，これも疑問であり，川崎氏は挙げていない。

〔生品〕朝来郡朝来町黒川渓谷（福田）

〔記録〕美方郡扇ノ山（川中，瀬戸），瀞川山（細見），朝来郡黒川渓谷（川中），養父郡妙見山，氷ノ山（目録）

ミヤコアオイ A. asperum F. Maekawa（図2）

本種は近畿以西に分布する。ヒメカンアオイよりは山地へ入るが深い山地にはない。

図2　ミヤコアオイ　宍粟郡山崎町比地原産
筆者栽培

兵庫県では西摂，丹波，西播に自生していることは植物目録の産地に見られるとおりである。不思議なことに本種は東播に確実な産地が知られていないことである。今後の調査が必要な地域である。

いまひとつ，市川流域（主として神崎郡でここにも未確認である）を北上して但馬へ入っているかどうかも注意したい。山本氏（28）によると，越智研一郎氏は養父郡養父町産のミヤコアオイの葉上に産みつけられたギフチョウの卵塊を入手したと報告しているそうであるが，はたしてミヤコアオイであろうか疑問を残しておきたい。このあたりは，つぎに述べるアツミカンアオイの分布圏であるからである。

〔生品〕竜野市鶏籠山（建部），揖西町中垣内（丸尾耕夫），相生市三濃山（建部），佐用郡上月町櫛田（建部，内海功一），上月町（家永善文），宍粟郡山崎町比地（建部）

〔記録〕川西市笹部（日浦），一の鳥居付近（日浦），川辺郡猪名川町肝川（日浦），三田市（小早川，目録），高平（小早川），多紀郡小金岳（奥谷），西谷（荒木），西紀町佐中峠，下坂井（目録），三岳，西ケ岳，竜蔵寺（山本），氷上郡市島町下鴨坂（荒木），鬼の架橋～上小倉（山本），竜野市鶏籠山（林），宍粟郡山崎町下牧谷（建部），比地…城下村（建部），相生市瓜生（佐藤，筆者も見た），三河（目録），六甲山（山鳥，川崎）

なお，私は赤穂郡上郡町富満で採集し，栽培している生品を見ている。（宍粟郡安富町塩野了円寺庭園）

ナンカイアオイ A. nankaiense F. Maekawa

本種は兵庫県植物目録に新しく加えなければならない。

私は淡路南部のカンアオイとして記録されているものは多分本州のものとちがうであろうと考えてきた。恐らくナンカイアオイであろうと考え，山西元氏にお願いして三熊山の生品を送っていただいたところ，まぎれもなくナンカイアオイであった。また，大阪市立自然史博物館の日浦勇氏がすでに採集されていることも知った。これは昭和45年のことであったが，その後，家永善文氏が諭鶴羽山で採集されたものも本種であった。

淡路のカンアオイ属は古く水口清氏の Flora of Awaji 以来すべてカンアオイと記録されてきたが，その大部分少くとも諭鶴羽山系のカンアオイ属はナンカイアオイと考えてよいと思う。そうして北部のものは何であるか従来全く知られていない。ヒメカンアオイかミヤコアオイであろうが，この調査も残されている。それと共にナンカイアオイが和泉砂岩地帯に限って分布するか，それともどこまで北上するかも研究課題である。

〔生品〕洲本市三熊山（山西元），諭鶴羽山（家永善文）

〔記録〕三原郡南淡町稲田南，賀集生子（日浦）

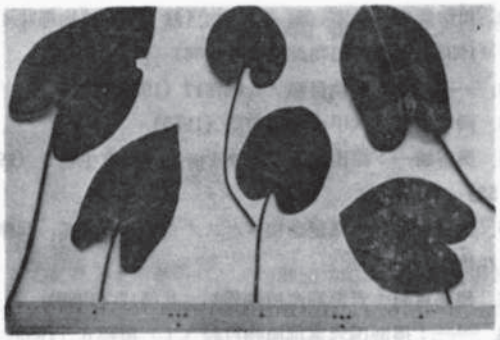

図3　左―アツミカンアオイ・中―ヒメカンアオイ・右―ミヤコアオイ

アツミカンアオイ　A. kooyanum var. rigescense Kitam.（図4）

図4　アツミカンアオイ　神崎郡大河内町栗

アツカンアオイは紀伊半島南部と北陸西部から但馬への裏日本との隔離した2つの分布圏を持っている。故荒木英一氏は裏日本のものは表日本のものと異るとの見解をもってサンインカンアオイ A. saninense Araki の和名学名を用意した。（荒木2）

近年本種の但馬の産地がかなり明らかになってきたが，筆者は本種が市川流域北部をどこまで南へ下るかに関心を持っている。現在神崎郡大河内町長谷（長谷駅付近）まで南下しているのを確認している。さらに南下するかどうかを調査することが課題となった。

つぎに，兵庫県植物目録に淡路山本（恐らく灘の山本）が挙っているが，ナンカイアオイであろう。確認されるまで淡路のアツミカンアオイは削除するのがよい。

本種は山地性のものであるが，荒木氏によると丹後・但馬では山地性の植物で沿海地に及ぶものがあり，本種もその1つであるという。海に近い山地も注意する必要がある。例えば浜坂町観音山にギフチョウが生息するのは食草の本種が自生しているからであろう。

〔生品〕豊岡市但馬文教府（藤本義昭），美方郡霧ケ滝（岩谷成彦），村岡町猿尾滝（三木順一），養父郡大屋町須留ケ峯（橋本光政），天滝（岩谷），妙見山（岩谷），朝来郡生野町朽原高原（三木），神崎郡大河内町長谷（栗）（建部）

〔記録〕養父郡旧大蔵村（荒木），朝来郡朝来町山本（福田菊市），生野町朽原高原（岩谷氏がヒメカンアオイと報告したのは本種の誤認）

ヒメカンアオイ A. takaoi F. Maekawa

（図5，6）

図5　ヒメカンアオイ（キンカンアオイの型）三田市藍本原産　稲田又男氏採　筆者栽培

図6　ヒメカンアオイ　揖保郡揖保川町袋尻原産　筆者栽培

本種は兵庫県西部が分布の西限かも知れない。岡山県のカンアオイ属の調査が極めて不充分で確定的ではないが，少くとも加古川以東の県東部にはかなり多くの産地が知られているのに，それから西には非常に少なくなる。そうして西播特に揖保赤穂ではミヤコアオイが多くなる。このような分布状態から一応こうした予想を立ててみたのである。先にヒメカンアオイが赤穂郡に産すると分布上貴重だといったのはこの観点からいったわけである。私が先に報告した揖保郡揖保川町袋尻は確認された最も西の貴重な自生地である。西播の自生地の調査が重要な課題である。

第2に東播の加古川と市川に挾まれた地域から知られ

ていないことも注目したい。恐らく調査が不充分なためであろう。

〔生品〕六甲山（若山治夫），三田市藍本（稲田又男），多紀郡丹南町当野（細見末男），雌岡山（三木順一），姫路市飾西（芳沢忠二），豊富町（橋本光政），揖保郡揖保川町袋尻（建部）

〔記録〕宝塚市大原野（日浦），立合新田（日浦），六甲山（川崎一キンキカンアオイ，岡本），多紀郡当野（荒木），加東郡光明寺山（山本28）

なお，蝶研究家によってマルバカンアオイの名で記録されているのは本種である。また，蔵本博美氏から三田市上野の本種を見せていただいたが，ここでは田の畔に自生しているそうである。

Ⅳ　兵庫県産カンアオイ属に関のある文献

1. 荒木英一：三丹地方産カンアフヒ属植物　植物分類地理6（1937）
2. ――：「丹後・但馬・因幡海岸地方の自然科学的考察」中筆者に関係ある部分の解説並びに増訂　兵庫生物3（1955）
3. 江越千代子：雌岡と雄岡　兵庫の自然　のじぎく文庫（1960）
4. 福田菊市：但馬朝来郡植物誌（謄写）（1957）
5. 日浦勇・瀬戸剛：日本産カンアオイの分布記録　自然研究1（1968）
6. 細見末雄：瀞川山植物報告　兵庫生物6（1970）
7. 岩谷成彦：枥原高原　兵庫生物4（1961）
8. 川崎正：六甲山に産する暖地性及寒地性植物　兵庫生物1（1948）
9. 小早川利次：有馬郡の植物概観　兵庫県博物学会会誌14（1939）
10. 近藤昭一郎：雌岡山の植物　兵庫の自然　六月社（1966）
11. 河野好博：淡路島の暖地性植物，寒地性植物，その他　兵庫生物1（1951）
12. 川中菊市：兵庫県朝来郡植物目録（1）植物趣味4（1935），（2）植物趣味5（1936）
13. ――：但馬植物目録　兵庫博17（1939）
14. 岡本省吾：六甲山系植物誌（1955）
15. 奥谷禎一：篠山地方のギフチョウ　兵庫生物3（1955）
16. 佐藤茂樹：天然記念物コヤスノキをたずねて　兵庫生物3（1956）
17. 建部恵潤：宍粟郡産植物報知　兵博17（1939）
18. ――：播磨国宍粟郡植物目録（1）植趣8（1939）
19. ――：兵庫県宍粟郡および近接地植物分布資料　兵庫生物6（1970）
20. ――：播磨船越山植物目録　兵庫博11（1936）
21. ――：兵庫県宍粟郡船越山植物概観　兵庫生物2（1952）
22. ――：兵庫県宍粟郡と近接地の植物文化財(3)　兵庫生物6（1974）
23. 槌賀・大島・伊藤：諭鶴羽山とその原始林　兵庫の自然　のじぎく文庫（1960）
24. 山鳥吉五郎：六甲山の植物（1944）
25. 山口清司：加東郡野外植物目録　兵庫博18（1940）
26. 山本広一：県下に於ける蝶類の採集地について(1)　兵庫生物1（1951）
27. ――：珍しい蝶　兵庫の自然　のじぎく文庫(1960)
28. ――：兵庫県下のギフチョウについて　兵庫生物5（1967）
29. 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(1)　兵庫生物3（1958）
30. 山西元：三熊山の植物　兵庫の自然　のじぎく文庫（1960）
31. ――：国立公園三熊山の植物　兵庫の自然（1966）六月社
32. 兵庫県博物学会：播磨植物目録（1935）
33. 林　弥栄：鶏籠山植物誌　野外博物3（1941）